第 2017-02 号

恵みと真理のニュース

2017 年 1 月の二次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

［証］

私の全ての家族が主の中で信仰と愛で一つになって教会学校を仕えるように神様が恵みを与えてくださいました

私は田舎で生まれ育つ間、信実な親をついて幼いごろからイエス様を信じて熱心に信仰生活をしました。そうして、ソウルに来てから社会生活をしながら信仰生活がおろそかになりました。主と遠くなり、性格が心細くて様々な悪い事を経験して、8年間神経性、胃腸病を患いました。様々な病院を通って薬を飲んでみてもどんな効果がなかったです。そのように、肉体的、精神的の苦痛の中で今まで父の家を離れて苦労したどら息子の心になって主の所を懐かしく思って教会に通う考えをしました。その考えをする時1985年に職場を移動してアンヤンにある大企業で勤務するようになりました。そこで真面目な青年に出会ってそのしまいに導かれ恵みと真理教会に来て水曜礼拝に参席しました。

教会に初めて来たその日、当会長牧師は創世記の講解説教をしてくださってその御言葉に恵みを受けて心深く感動され祈りの時間に涙を流しながら悔い改めました。その以後、青年部と教会の全ての礼拝に参席して信仰が強くなりました。主日には一日ずっと教会にいるほど礼拝と奉仕に力を使いました。時によって助けでくださる神様の恵みが望みました。熱心に願いながら祈ったら職場で配慮して希望した勉強をすることが出来ました。また、結婚する時期になると神様が準備してくださった旦那を紹介してもらいました。当時、他の教会に通う旦那は私と付き合いながら私の教会を仕えいました。旦那以外の家族はみんな信じない家庭だったので結婚式の日を日曜日に決めて困りました。しかし、神様に祈りながら、神様がくださる、弾力と勇気で姑を説得した後、恵みと真理教会で結婚式をすることが出来ました。神様の恵みでした。

いつ、どこでも主を喜ばせる生活をすると決心した私達の夫婦は結婚した後、結婚して初めの主日に聖歌隊で奉仕しました。どころが、結婚してまもなく旦那が通っている会社の勤労者達が長い間ゼネストに入って経済的に苦しくなりました。そして、旦那の実家では様々な行事の理由で主日ことに私たちを呼びました。そして、苦しい環境と迫害の中で私たちの夫婦はそれにも関わらず礼拝中心と御言葉中心の生活を続けました。礼拝時間ことに当会長の牧師の説教と祝福祈りが私たちに大きい慰めと力になりました。

経済的な 苦しみを噯気にも出さなくてお母さんと神様の助けで克服することが出来ました。問題は婚家の家族の救いでした。私たちは頑固な舅と兄弟たちのため断食しながら祈りました。その中で健康が急に悪くなった舅が危機な状態でイエス様を受け入れて天国に行きました。そして、偶像崇拝をして毎月祭祀をした婚家も私たちが結婚して10年ぶりにもうどんな祭祀もしなくなりました。

赤ちゃんを育てながら聖歌隊奉仕を休んでいる中、教会学校の伝道士の勧めで4歳と2歳の子供たちを連れて幼稚部で教師として奉仕を始めました。教師で奉仕しながら神様に休まずに祈ったら小さい事業場を開設するように神様が助けてくださいました。神様の恵みに感謝して朝から夜まで誠実に働きました。金曜日には早く仕事を終えて祈り会には必ず参席しました。そのようにいつも神様に感謝して祈って熱心に礼拝する私たちに神様は全ての苦難が福となるようにしてくださいました。5年ぶりに大きい事業場が出来て当会長を招いて感謝礼拝を神様に捧げました。感謝の限りです。しかし、事業が盛んで経済的に余裕が出来て礼拝におろそかになって魂が乾い始めました。こうしてはいけないと旦那と議論の末に事業場をほかの人に売りました。それで以前よりもっと教会中心と礼拝中心の生活しました。水を離れて魚が生きれれないような、主が神様を離れないことをもう一度切に体験しました。

今は私の家族は教会学校で教師として学生たちを仕えています。長男と私はアンヤン聖殿で小学部と高等部で、旦那はポイル聖殿の中高等部で奉仕しっていて次男は軍宗兵で教会を仕えて最近に除隊しました。経済的に豊かではなかった時より余裕がなくて家族と熱心に神様に礼拝をして奉仕をする今が一番心が楽しくて平安で幸せです。このような喜びと幸いをくださった神様に感謝します。主がくださる誉め言葉と賞を愛しながら相変わらず主を愛し奉仕を休まずに真面目で忠誠に献身と奉仕します。神様にすべての栄光を捧げます。

［信仰コラム］

あなたの腰に帯を締めなさい

"それだから、心の腰に帯を締め、身を慎み、イエス.キリストの現れる時に与えられる恵みを、いささかも疑わずに待ち望んでいなさい。"（ペトロ書一 1:13）

昔ユダヤ人は頭部と両腕の部分に穴が空いている袋のような幅が広くて長い服を着ました。従って何事をする時、走る時や戦闘をする時のように敏捷に体を動かす場合には腰を帯で締めました。イスラエル子孫が430 年間のエジプト生活に終止符を打って初めての過越の夜、彼らはモ-セの指示に従って子羊の肉を焼いて種入れぬパンと苦菜を添え食べ、腰に帯を締めました。出発命令が下ると直ちに離れることができるようにするためです。"腰に帯を締めなさい"というお言葉が新約聖書にもたくさん記録されております。

第一は、エフェソの信徒への手紙 6 章 10 節から 17 節までには聖徒達が戦うべき戦闘の性格と霊的武装の必要性を言及しながら聖徒が取るべきである神様の全身武具に関して紹介しています。その一番目が"腰に帯を締めなさい"という命令です。腰帯は体を縛るようであるが、実際には体を自由にして力強く活動することができるようにしてくれます。"真理"であなたの腰帯を締めなさい"と言われました。救いの福音が真理で、イエスキリストが真理であります。"真理の帯を腰に締めなさい"というお言葉は"救いの福音が生活の中心を占めるようにしなさい""イエスキリストが中心におられるようにしなさい"という意味です。

第二は、ペトロ書一 5 章 5 節に記録されたお言葉です。"同じように、若い人たちよ。長老たちに従いなさい。また、みな互に謙遜を身につけなさい。神は高ぶる者をしりぞけ、へりくだる者に恵みを賜うからである。"としました。

"謙遜を身につけなさい"としました。まるで奴隷が主に仕えるため前掛けを腰に結ぶように仕えの姿勢を持つべきだという意味です。謙遜はキリスト教の徳目の中で最高になります。神様との関係で謙遜の姿勢は大きく二つに分けることができます。一、全ての光栄を神様に捧げることです。神様に感謝と賛美を捧げ、神様に光栄を捧げることが謙遜であります。二、神様を信頼してその命令に従うことです。神様のお言葉が理解できなくても、神様が行われることが心に合わなくても信じて従うべきです。そして、人間関係で謙遜な姿勢は"だから、何事でも人々からしてほしいと望むことは、人々にもそのとおりにせよ"というイエス様のお言葉に良く表れています。

第三は、ペトロ書 1 章 13 節に記録されたお言葉です。"それだから、心の腰に帯を締め、身を慎み、イエス.キリストの現れる時に与えられる恵みを、いささかも疑わずに待ち望んでいなさい。"としました。

"心の腰に帯をしめなさい"というお言葉は競争をしたり重要なことをする時のように気を付けて行いなさいという意味です。聖徒達は聖なる緊張を緩めないようにしなければなりません。そして"謹慎"とは自制して自重すること、言行を慎むことです。コリントの信徒への手紙一 10 章 12 節に"だから、立っていると思う者は、倒れないように気をつけるがよい。"と記録されています。これが謹慎する姿勢であります。イエスキリストの再臨が私達にもたらす恵みは何ですか？一、この世を審判なさるでしょう。二、聖徒達は復活するでしょう。三、各人が労苦した通りに主の称賛と賞を受けるでしょう。四、新たなエルサレムに入るでしょう。まるで、花嫁がその花婿のために装ったようにとても美しくて輝かしい城に入り、永遠に主と共にいるでしょう。

全てのことを真理のお言葉とイエス様に結び付けて計画し、判断して行動することが真理で腰帯を締めることであります。神様に光栄を捧げて神様の言約を信頼し、そのお言葉に従って仕えを受けるより仕えることに励むことが謙遜を身に付けることです。気を付けてイエスキリストが再臨なさる時に受ける恵みを常に期待することが心の腰に帯を締めることです。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

私の善良な牧者であるイエス様

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

今日は ヨハネによる福音書 10 章でイエス様が自分と聖徒を示して牧者と羊に比喩したお話を詳考します。

1 節と 2 節に “よくよくあなたがたに言っておく。羊の囲いにはいるのに、門からでなく、ほかの所からのりこえて来る者は、盗人であり、強盗である。門からはいる者は、羊の羊飼である。”と記録されました。
イスラエル地域での羊の囲いは泥や荒い石あるいは茨の薮で作ります。 牧者は朝に羊を放牧してから夕方には囲いに連れて来て門に入って行かせます。 牧者は羊を守るために察します。盗賊と強盗が羊を盗もうと囲いの門ではない他の所で侵入するからです。 イエス様がおっしゃった羊の囲いの門は聖書に啓示されたあがないの真理を意味します。 イエス様が十字架に釘付けられる事ができなくたまらないことで私の罪を赦したあがないの真理ではない他の教訓で羊に近付く者を示して盗人であり強盗とおっしゃいました。
3 節から 5 節まで記録されるのを “門番は彼のために門を開き、羊は彼の声を聞く。そして彼は自分の羊の名をよんで連れ出す。 自分の羊をみな出してしまうと、彼は羊の先頭に立って行く。羊はその声を知っているので、彼について行くのである。
ほかの人には、ついて行かないで逃げ去る。その人の声を知らないからである」。” と言いました。門番は牧者であるイエス様を示します。イエス様は自分の羊の名前をそれぞれ呼んで導きます。 イエス様を牧者に従う聖徒はひとりひとりがイエス様の選ぶことと呼ぶことを受けた者です。 だから聖徒になったわれわれのひとりひとりがイエス様と親密な人格的な関係を結んでいるということをおっしゃっています。
イエス様の羊はイエス様の音声が分かってその音声だけ付いて行きます。 イエス様の音声は聖書に記録されたお言葉です。 イエス様の羊は聖書と違う音を出す者を決して従わないです。そういう音はきっぱりと排撃します。
6 節から 8 節まで記録されるのを “イエスは彼らにこの比喩を話されたが、彼らは自分たちにお話しになっているのが何のことだか、わからなかった。 そこで、イエスはまた言われた、「よくよくあなたがたに言っておく。わたしは羊の門である。
わたしよりも前にきた人は、みな盗人であり、強盗である。羊は彼らに聞き従わなかった。” と言いました。
イエス様がこの比喩のおっしゃる時きく人々がその意味を理解することができなかったです。牧者と羊に対して理解することができなかったのではないことは明らかです。 イスラエル人のご先祖は概して牧畜をしたからです。 イエス様は自分と聖徒の関係を牧者と羊の関係で比喩しておっしゃったが人々がこれを理解することができなかったのです。 だからイエス様がまたおっしゃいました。 “よくよくあなたがたに言っておく。わたしは羊の門である。わたしよりも前にきた人は、みな盗人であり、強盗である。羊は彼らに聞き従わなかった。”と説明しました。
イエス様はイエス様より先に来た者はすべて盗人であり強盗とおっしゃいました。 このお話はイエス様がたれかが分からない人々には度を越して独りよがりな言葉で聞こえるでしょう。だからこのお話を理解して受け入れる人になる前には真正なクリスチャンであるとできないです。 あがないの死を死のうと世の中へいらっしゃったイエス様の外には救世主がいないからイエス様の以前に救世主に行世した者は人の魂を害する盗人で強盗に過ぎないです。 今日も同じです。
9 節に記録されるのを “わたしは門である。わたしをとおってはいる者は救われ、また出入りし、牧草にありつくであろう。” としました。イエス様は唯一の救いの門です。 “私によって入って行けば救いを得る。” と言いました。 救いの門に入って行く者だけが救いをもらいます。 門の前でぶらつくとかあっちこっち覗くとか門を詳らかに観察することでは救いを得ることができないです。 ノア時代の人々は救いの戸の外に立ってあっちこっち覗くとか観察してから退いてしまった人々の典型です。 ノアが神様の指示を受けて大洪水の審判を備えて神様が詳しく教えてあげたとおり箱舟を建造し始めました。 ノアは箱舟を建てるうちにも人々に神様の審判に対して熱心を述べ知らせました。 人々はノアの言葉を信じなかったです。 120 年の歳月が経って箱舟が完成されました。 神様がノアに命じて家族たちを連れて箱舟に入って行きなさいと言いました。そして各種の動物が雄と雌ふたつずつ箱舟に入って行きました。 見手が途方もなく寄り集まったはずです。 ノアは彼らに手間を取らずに箱舟に入って来なさいと叫んだが人々はその言葉をきかなかったです。

三種類の愚鈍で可哀相な人々がいます。 第一は、箱舟を全く見るともしない人々です。 キリスド教の外に関心さえ持たない人々です。二番目は、箱舟をあっちこっち覗いた人々です。信じる祈祷をして教会に登録までしてからもイエス様を信じない人、教会に通っている途中信仰の道で後ろを向く人々です。 三番目は、箱舟の造るに参加した人々です。 キリスド教の系統の機関や教会で勤めながらも信じない人々、教会堂の建築に参加してからも教会に通わない人々です。
神様の警告をきいてからも悟ることができないことよりもっと大きい不幸はないです。 イエス様がおっしゃるのを “人の子の現れるのも、ちょうどノアの時のようであろう。すなわち、洪水の出る前、ノアが箱舟にはいる日まで、人々は食い、飲み、めとり、とつぎなどしていた。そして洪水が襲ってきて、いっさいのものをさらって行くまで、彼らは気がつかなかった。人の子の現れるのも、そのようであろう。”(マタイによる福音書 24:37～39) としました。彼らは悟るのに十分な現象を見られました。もしノアの言葉が信じられないと言っても幾多の獣がつれそって列をなして箱舟に入って行くことを見れば決して尋常に思われなかったはずです。 それなのに彼らはその現象に対して無感覚でした。 ノアが箱舟に入って行った日から 7 日後に箱舟の門が閉まりました。 ノアが 600 歳になった年の 2 月 17 日に大きいと低いの泉が裂けて天の窓が開かれて四十日の昼夜を雨が地に溢れました。 箱舟の周囲を歩き回りながら見物した人々、箱舟を触って見た人々、箱舟の内をあっちこっち覗いた人々が皆が滅亡されました。 箱舟のドアがあいている間には入って行くのが容易かったが閉まった後には誰も入って行くことができなかったです。 ノアの閉めたのではなかったです。 “エホバがノア後から門を閉めた。” と聖書に記録されています。
ヨハネの黙示録 3 章 7 節に記録されるのを “ヒラデルヒヤにある教会の御使に、こう書きおくりなさい。『聖なる者、まことなる者、ダビデのかぎを持つ者、開けばだれにも閉じられることがなく、閉じればだれにも開かれることのない者が、次のように言われる。”と言いました。 神様が機会の門を閉めればどの誰も開くことができないです。 イエス様に対して言って研究して好意的なものを言うと救いをもらうのではないです。 唯一の救いの門であるイエス様の中に入って行かなければなりません。他に言ってイエス様を自分の救い主に信じて迎接しなければなりません。
“わたしをとおってはいる者は救われ、また出入りし、牧草にありつくであろう。”と言いました。 わたしが処して直面する状況がどうでもすべて有益になるように気配りします。
10 節に記録されるのを “盗人が来るのは、盗んだり、殺したり、滅ぼしたりするためにほかならない。わたしがきたのは、羊に命を得させ、豊かに得させるためである。” と言いました。ここに言及された盗賊はサタンとサタンの下手人の役目をする者を示します。 似以非異端がサタンの下手人です。 彼らは福音を混雑させる仕事をします。 サタンは偽りの父でその偽りは自分の本性から出るのです。 盗んだり、殺したり、滅ぼしたりすることはサタンの本質です。 本性は変わらないです。イエス様が世の中へいらっしゃった目的は彼を信じる者に生命を得させてもっとふんだんに得させるためなのです。 生まれかわった生命をくださって天国で永遠に住ませます。
11 節から 15 節まで記録されるのを “わたしはよい羊飼である。よい羊飼は、羊のために命を捨てる。羊飼ではなく、羊が自分のものでもない雇人は、おおかみが来るのを見ると、羊をすてて逃げ去る。そして、おおかみは羊を奪い、また追い散らす。
彼は雇人であって、羊のことを心にかけていないからである。わたしはよい羊飼であって、わたしの羊を知り、わたしの羊はまた、わたしを知っている。それはちょうど、父がわたしを知っておられ、わたしが父を知っているのと同じである。そして、わたしは羊のために命を捨てるのである。” としました。
臨時雇いとイエス様の差は明確です。 イエス様は羊のために自分の命を十字架に出しておきました。 臨時雇いは自分の一身上の有益のために行動します。 信者に宗教多元主義、宗教一致主義、宗教混合主義の実体を知らせないです。

16 節には “わたしにはまた、この囲いにいない他の羊がある。わたしは彼らをも導かねばならない。彼らも、わたしの声に聞き従うであろう。そして、ついに一つの群れ、ひとりの羊飼となるであろう。”と記録されました。 この囲いに入らない羊と言うのは異邦人を言います。まだイエス様に出て来ない者を言います。 このお話を従ってわれらはまだイエス様に出て来ない人々に行って福音を述べ伝えなければなりません。

聖徒の皆さんがこのような心で熱心に伝道するからイエス様が呼ぶ音声をきいてから同じ群れになる人々がずっとできています。 善良な牧者であるイエス様に来て救いもらう人の数が日増しに加えて行くことを見る楽しみが皆さんの心霊に一杯になるように願いします。